

まなざしの輪

桜の季節が過ぎ、園庭の若葉がまぶしい季節となりました。新年度がスタートして1週間。園内には子どもたちの元気な声と、新しい生活への期待が満ちあふれています。この「まなざしの輪」というタイトルには、教師からの一方的な視線ではなく、子ども・家庭・地域・教師が互いに見つめ合い、心を通わせ合う双方向のつながりを大切にしたいという願いを込めました。今号では、それぞれの学年で見せている「はじめの一步」の様子をお届けします。

つぼみ組【4歳児】丁寧な自立

4歳児の子どもたちは、一つお兄さん・お姉さんになった喜びを感じながら過ごしています。今は身の回りの支度を一つひとつ丁寧にいき、幼稚園生活のリズムを自分自身で取り戻そうとしている時期です。靴を揃える、カバンを掛ける。そんな当たり前の日常を自分の力でやり遂げる姿には、一年前よりもずっと頼もしさを感じます。

みのり組【5歳児】憧れのリーダー

最上級生の5歳児は、早くも「年長さん」としての自覚を持って行動しています。ウサギのちょこちゃんのお世話を率先して行ったり、外遊びの後には園全体の片付けに気を配ったり。誰かの役に立つ喜びを知り、園のリーダーとして動き出した彼らの姿は、下級生たちの憧れの的になることでしょう。

ふたば組【3歳児】はじめての冒険

初めて保護者の方と離れて生活する子どもたち。朝は寂しくて涙が出ることもありますが、少しずつ自分の「楽しい」を見つけ始めています。「ペタペタする！」と糊遊びに夢中になったり、教師の顔を見上げて「楽しいねえ」と微笑んだり。確実に、幼稚園が「安心できる場所」へと変わり始めています。

共に育ち合う場でありたい

幼稚園は、子どもたちが初めて出会う「社会」です。自分でできることが増える喜び、誰かのために動く誇らしさ、そして新しい世界に一步踏み出す勇気。私たちは、一人一人の思いに寄り添いながら、そのかけがえのない瞬間を大切に見守っていきたいと考えています。